

群馬県林業講師派遣プログラムの概要

林業現場の事故の原因別割合 (R1～R5) ※群馬県

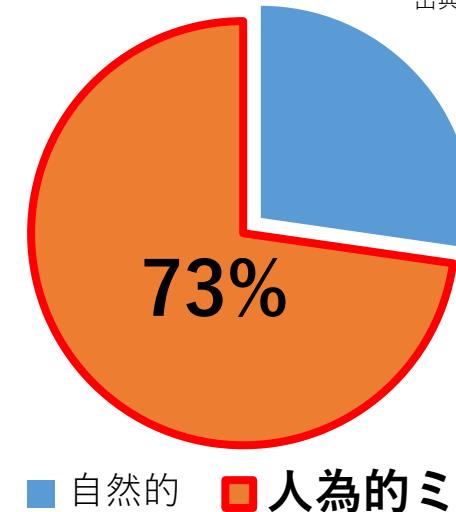
出典：群馬県林業振興課独自集計

【林業現場の課題（現状認識）】

- ・労働災害の発生率が減少しない

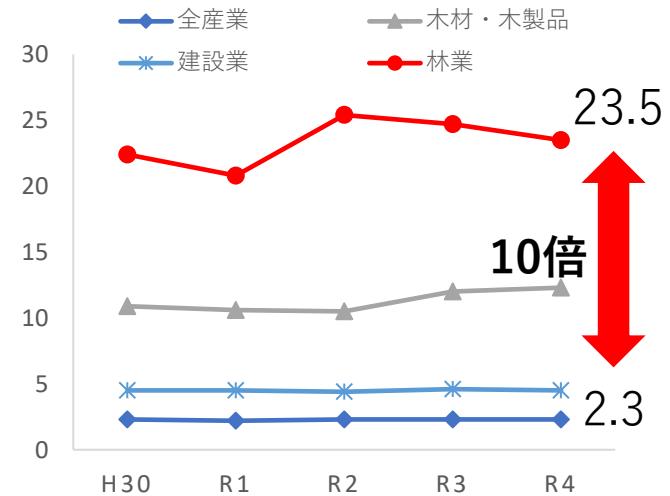
※高い水準で推移（危険）

※特に林業経験が少ない従事者



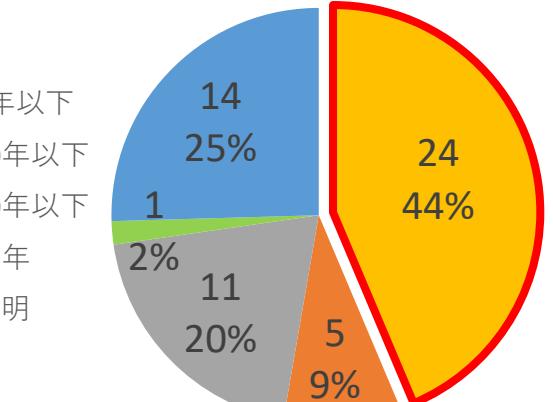
全55件のうち40件（約7割）が人為的ミスによるもの

産業別死傷年千人率（災害の発生率）※全国



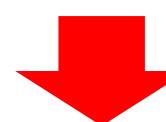
林業現場の事故発生時の被災者の経験年数割合
(R1～R5) ※群馬県

出典：群馬県林業振興課独自集計

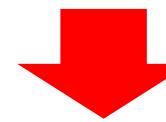


経験年数が5年以下の割合が約4割

林業現場技術者の『技術・技能』に課題

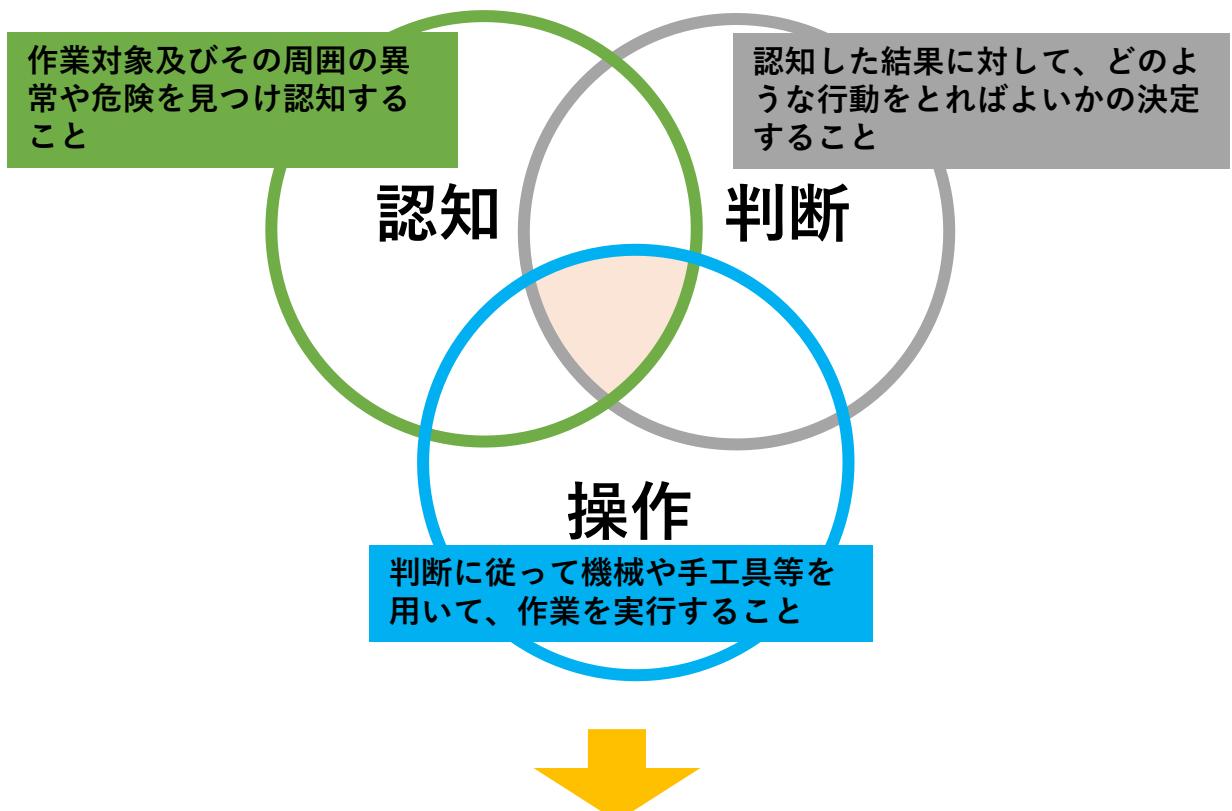


研修の方法（現場技術者の育て方）の見直しが必要



出典：労働者死傷病報告（厚生労働省）及び総務省労働力調査
※千人率とは、労働者1,000人あたり1年間に発生する死傷者数

林業の現場作業で重要な3つの要素

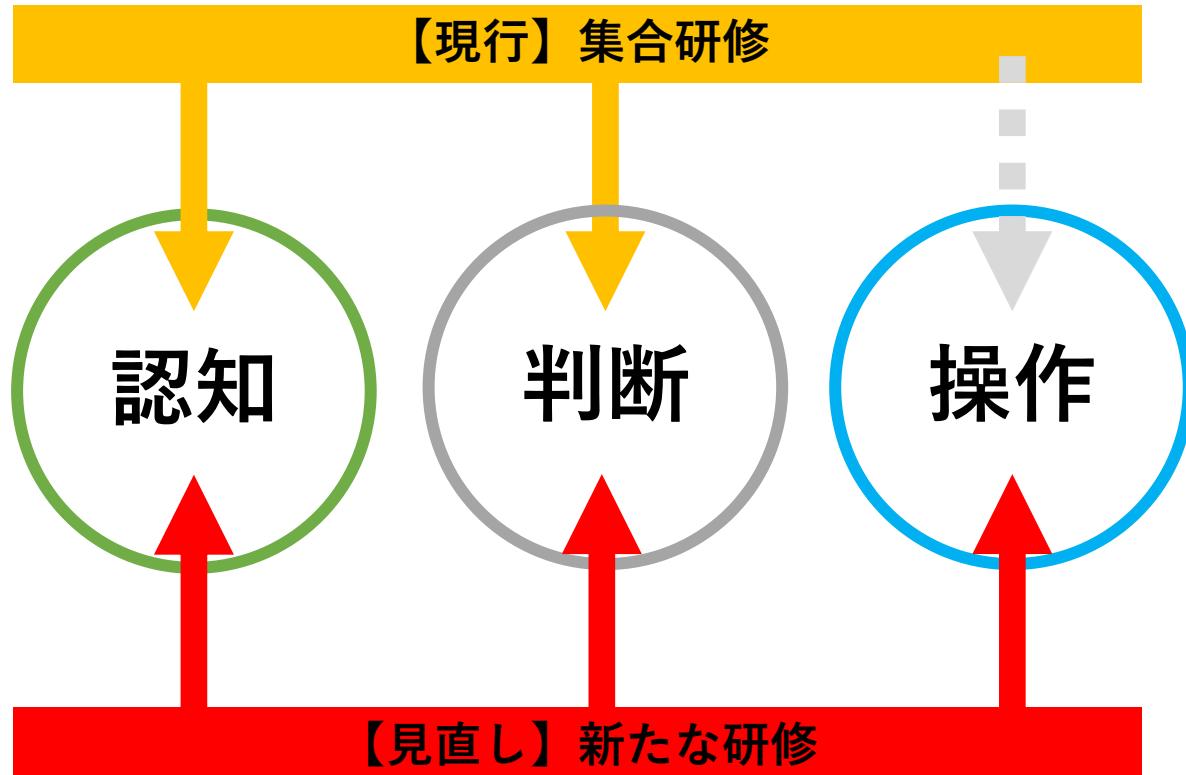


認識・判断・操作のいずれかにミスが生じると

事故が発生する

【現行】集合研修（全体研修）

- 「認知能力」、「判断能力」の向上への対応は可能
- 個々の「操作能力」の向上には制約がある



- 「認知」、「判断」、「操作」**全て**の能力の向上が必要
- 操作能力を向上させるための取組の**強化**が必要

- ↓
- 個々の能力に応じた、きめ細やかな研修
 - 個別指導型の研修

【現行】集合研修（全体研修）

県が設定するテーマにて、県有林や農林大学校に受講生を集め、講師（1）：研修生（n）の関係で研修を実施。
※現在はぐんま林業担い手対策として高性能林業機械、作業道の作設、伐倒技術3種類の集合研修を実施

【課題】

- ・認知、判断の能力を向上させることには適しているが、個々の操作能力を向上させるには時間的制約がある。
- ・研修実施内容と研修生が求めているもの（研修生のレベル）がマッチしていない。
- ・集合研修での研修環境（機械、地形、土質）が、実際の現場と異なる。
※習得した知識が活用できない。
- ・どのような研修を実施しているかを雇用主や班長が把握できない。
※研修で習得した技術や知識を否定される事例が生じている。

【研修効果】

研修人数（募集人数） 高性能9名、作業道6名、伐倒6名

【見直し】個別指導型の研修（講師を派遣）

事業体が必要とするテーマを設定し、事業体のフィールドに講師を派遣し、講師（1）：研修生（1）の関係で研修を実施。

【解決策】

- ・きめ細やかな研修を実施することで、認知、判断の能力に加え、操作能力を向上にも対応が可能。
- ・事業体が必要とするテーマの設定が可能。
- ・個別指導により研修生のレベルに応じた研修の実施が可能。
- ・事業体のフィールドで研修で実施したことが、すぐに現場（実践）に生かせる。
- ・事業体が必要とするテーマの設定や雇用主や班長と指導方法の調整を行うことで、研修内容を共有することできる。

【研修効果】

研修人数 講師派遣プログラム 10名
※従来よりも質の高い研修の実施



研修生の認知・判断・操作の各能力が向上



現場でミスが減る→事故が減る

【群馬県林業講師派遣プログラム】

- ・全体研修（集合研修）から個別指導型の研修へ
- ・個別指導型の研修のモデル事例を収集（委託事業として）

県でテーマ設定

研修企画を募集

試行・モデル研修を委託

試行・モデル研修
(講師派遣による個別指導研修)

